

XI 排尿ケアチーム



排尿ケアチームは入院患者が排尿自立するために病棟スタッフの支援を行っている。泌尿器科医師、泌尿器科外来看護師、リハビリテーション部の作業療法士・理学療法士からチームは構成されており、病棟看護師とともに評価、計画、実施、治療後評価を行なう。対象患者は尿道カテーテル抜去後に、尿失禁、尿閉などの下部尿路機能障害の症状を有する、あるいは見込まれる入院患者である。ゴールは自力での排尿管理で、自排尿または間欠導尿が可能となって退院することを目指している。必要な症例には随時個別対応開始し、週1回水曜日のカンファレンス・回診により方針を決定・修正した。

チーム活動が院内に浸透してきたため、昨年度は院内の大部分の病棟と診療科からの依頼を受けたが、下部消化管外科、炎症性腸疾患外科、婦人科、整形外科、脳神経外科、脳神経内科など神経因性膀胱と関連した診療科が多かった。現在週平均で3-4例のケースに介入している。

本チームの活動のバロメーターである泌尿器科入院患者以外への介入例は2020年度の34例から69例と倍増した。尿道カテーテルフリーとならなかった患者の一部については外来排尿自立支援を泌尿器科外来で継続し、退院後に導尿終了したりカテーテルフリーとなるケースもある。

2021年度は開催できなかった院内講習会をweb開催した。各種マニュアル類を充実させており、ナイトバルンの使用方法については今後動画ファイルを公開予定している。

XI-1 今年度の主な活動 院内講習会（web開催）

XI-2 2021年4月～2022年3月介入件数の内訳（合計120件）

対象患者	
患者数	120
年齢(中央値)	1-93 (72)
男女比	91:29

依頼病棟		
病棟	患者数	介入回数
1号館6階西	3	6
1号館7階西	2	3
1号館7階東	4	9
1号館8階西	41	86
1号館8階東	1	6
1号館9階東	6	18
1号館9階西	4	7
1号館10階東	3	15
1号館10階西	4	29
1号館11階西	5	23
1号館12階	7	16
1号館13階西	—	—
8号館2階	3	14
10号館4階	3	6
10号館5階	7	16
10号館7階	—	—
10号館8階	5	20
10号館9階	19	61
救急病棟	3	5

依頼科			
診療科	患者数	介入数	介入数平均
泌尿器科	51	112	2.2
泌尿器科以外計	69	228	3.3
下部消化管外科	14	41	
産科婦人科	3	5	
血液内科	3	17	
呼吸器内科	3	6	
整形外科	4	16	
アレルギー・リウマチ内科	1	4	
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1	8	
脳神経外科	11	29	
脳神経内科	5	16	
精神科神経科	2	9	
循環器内科	3	11	
形成外科	1	18	
小児科	3	8	
呼吸器外科	1	1	
炎症性腸疾患外科	4	19	
救命救急センター	3	5	
心臓血管外科	2	5	
上部消化管外科	1	6	

原疾患	
前立腺全摘術後	40
結腸・肛門手術後	19
子宮手術後	3
脊椎疾患	10
尿道疾患	5
精神疾患	2
その他	41

依頼理由	
術後尿失禁	40
尿閉	70
排尿困難	4
尿失禁	6

介入数	
のべ介入合計	340
回数(中央値)	1-18 (2)
介入1回	39
介入2回	39
介入3回以上	42

介入内容（重複あり）	
骨盤底筋体操	39
間欠導尿	50
尿道バルン抜去	59
薬物療法	63
排尿援助	6
留置継続	5
抜去検討のみ	5
ナイトバルン	5

転帰	
骨盤底筋体操継続	39
自排尿	37
間欠導尿継続	50
尿道バルン留置継続	2
治療中止	6
ナイトバルン継続	5
留置（DIBキャップ）	3

カテーテル抜去率：
カテフリー / (尿閉+排尿困難)
= 69/74 (93%)